

平成18年平均消費者物価地域差指数の概況

1 地方別の物価水準

平成18年平均消費者物価地域差指数（全国平均＝100）を地方別にみると、総合指数（持家の帰属家賃を除く）は、関東が103.0と最も高く、次いで北海道が102.3、近畿が101.6となっている。

一方、最も低いのは、沖縄の95.2で、次いで四国が96.6、九州が96.7、東北が98.3、中国が98.8、北陸及び東海が99.9となっている。

2 都市階級別の物価水準

都市階級別にみると、大都市が104.8、中都市が100.1、小都市Aが98.4、小都市B及び町村が96.6となっており、大都市は小都市B及び町村に比べ8.5%高くなっている。

3 都道府県庁所在市別の物価水準

都道府県庁所在市別にみると、東京都区部が111.0と最も高く、次いで横浜市が110.1、大阪市が107.0、京都市が105.7、さいたま市が104.6などとなっている。

一方、最も低いのは、那覇市の95.9で、次いで宮崎市が96.3、秋田市が98.3、高松市及び松山市が98.4、徳島市が98.7、佐賀市が99.0などとなっている。

なお、東京都区部は那覇市に比べ15.7%高くなっている。

図 地方別消費者物価地域差指数

